

第 22 期火災予防審議会第 5 回地震対策部会開催結果概要

1 開催日時

平成 29 年 1 月 12 日（木） 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

2 場所

J A ビル 3 階 302 会議室（東京都千代田区大手町一丁目 3 番 1 号）

3 出席者

(1) 委員（11 名、敬称省略、五十音順）

10 池上委員、糸井川委員、梅村委員、荻澤委員、大佛委員、加藤委員、熊谷委員、小林委員、坂本委員、中林委員、廣井委員

(2) 東京消防庁関係者（10 名）

防災部長、防災部参事、震災対策課長、防災部副参事、防災調査係長、防災調査係員 5 名

4 議事

(1) 地震対策部会第 4 回部会、地震対策部会第 7 回小部会の開催結果概要について

(2) 審議事項

ア 本審議の構造について

イ 実地検証の結果と得られた知見について

ウ PDCA 型防火防災訓練実施手引きについて

20 エ 第 22 期火災予防審議会における提言案について

5 配布資料

(1) 地部資料 5-1・・・第 22 期火災予防審議会第 4 回地震対策部会開催結果概要（案）

第 22 期火災予防審議会地震対策部会第 7 回小部会開催結果概要（案）

(2) 地部資料 5-2・・・本審議の構造について

(3) 地部資料 5-3・・・実地検証の結果と得られた知見について

(4) 地部資料 5-4・・・PDCA 型防火防災訓練実施手引きについて

(5) 地部資料 5-5・・・第 22 期火災予防審議会における提言案

(6) 参考資料 1・・・実地検証結果

(7) 参考資料 2・・・PDCA 型防火防災訓練実施手引き（案）

30 6 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

ア 地震対策部会第 4 回部会の開催結果概要及び第 7 回小部会の開催結果概要について
事務局より地部資料 5-1 について説明した。

イ 本審議の構造について
事務局より地部資料 5-2 について説明した。

ウ 実地検証の結果と得られた知見について
事務局より地部資料 5-3 について説明した。

40 [委員]

保護者の意見で子どもを守る方法をもっと知りたいとあるが、親子は、いつも一緒にいるわけではないので、子ども自身に身を守る方法や環境を安全な場所にしてほしいと考えているがやはりその辺りは強調して言う必要があるのか。アンケートの結果だけを参考に、親を対象に訓練を行うのではなく、幼稚園や保育園で訓練を行う意味は、子ども自身に意識を持ってもらうためであると考えている。

[議長]

地震や火災のパネルを見せて「地震だ！」と言うと頭を防護するような条件反射的に身を守るゲームがよく行われている。消防はそういった企画が不得手だと感じるのでゲーム感覚の中で防災的な意識や行動を取らせる訓練メニューを整理しておくといよい。

10

[事務局]

訓練ごとに対象に合わせて目的をはっきりさせて訓練を企画することが重要となってくる。また、親の関心として保育園や幼稚園が防災についてどのような取組みを行っているか興味があるという話があった。興味や関心に合わせたテーマを設定し、訓練を企画することも重要であると考えている。

[議長]

授業参観の様に、子どもが防災についてどのような事を学んでいるのか後ろで見学することも必要ではないか。そうすることで家庭の中で復習できる。

[委員]

20

防火防災訓練の中で必要とされている内容を全て行うことは難しい。東京消防庁として、各ターゲットに対してどの程度まで到達して欲しいか目標をある程度限定しておくことが重要である。基軸となるものが見えないと、あれもこれも必要となり、拡散してピントがボケてしまう。各対象、世代に対する到達目標を設定し東京消防庁が責任をもって指導していくことが今回の答申につながると思う。

[委員]

東京消防庁では、幼児期から社会人までの防災教育を掲げているが、その中に発達段階における教育項目が明確になっているのではないか。また、そのことは今回の中に取り込まれているのか。

[事務局]

30

発達段階に合わせた教育項目はある。今回、幼稚園児の保護者を対象とした訓練を行った。

[委員]

そうであれば、今回掲げられている結果の中で子どもも保護者もまとめた評価はおかしいのではないか。

[事務局]

仰る通り、対象に分けて考える必要があると考えている。子どもに対しては、発達段階に合わせた教育を東京消防庁で行っているので、そこを再度整理する必要があると思うが、本審議では対象としていない。

[委員]

新規参加率 50%以上という目標はとても高いと感じる。

[事務局]

40

どのあたりが適正かデータがないために高めに設定した。

[委員]

経験上、10%~20%の新規参加率でも高い方であると思う。

[議長]

難しいのは、マンション住民に対して防火防災訓練の参加を促すことか。

[事務局]

仰る通り、難しい感じを受けた。今回、実施したマンションはマンション防災組織が比較的しっかりしているところであり、防災訓練の形が固まっていた。支援していく仕組みは必要だが、今後実施していくのは新築マンションでコミュニティーが出来上がっていないところからやっていく必要があるのではないかと考えている。

[議長]

これまで自治会がやってきた防災訓練は、初期消火や応急救護といった定番のものはやっているという段階だったのか。

10

[事務局]

仰る通り、比較的行われているところであった。新たな訓練を導入しチラシを全戸配布することで前年からどの程度参加者が増加するかという視点で行ったが、その分は増えなかった。

[議長]

チラシの中身について、単に起震車、消火器、AED だけでなく全体を含めたキャッチーな訴えがあれば新規参加者に対し訴えかけることができるのではないかと。

[事務局]

1 回目のポスターは、防災フェスタということで楽しさを全面に押し出したキャッチーなものにしている。

20

[議長]

個別なものはそうだが、全体を一言でまとめるとどうか。

[事務局]

2 回目のポスターは、「そなえてる？いつやるの？いまでしょ？」というキャッチーなフレーズをいれてみたがポスターの差はあまりなかったように感じた。

[委員]

一番キャッチーなワードは、頭に持っていくべきである。また、家庭で使用されているほとんどの消火器は粉末消火器であるがそれを知らない人が多い。映像資料等を用いた訓練及び説明を行うべきである。

30

また、参加率や新規参加率の分母の統一がなされていないので同じ参加率の定義で算出するべき。全体に対して参加者数が基本となってくる。

防災訓練の中で行った防災講話の内容についても表記し詳しく分析を行った方が良い。将来的には、答申を受けて更にニーズに合わせた訓練を的確に展開できるようにしておく必要がある。また、防災講話のメニュー化及び防災訓練のメニュー化を行い訓練のアンケート結果や感想、要望の中から更に新しい防災訓練や講話のメニューを増やすとともに訓練機会についても増やす。幼稚園や保育園の運動会及びお遊戯会等のイベント時に 10 分～15 分を防災講話や防災訓練に充てることで保護者に対し幼稚園及び保育園での防災の取組みを見せることができる。今後の課題として、防災訓練及び防災講話のメニューの多様化、訓練機会の多様化を整理していくことで次に繋がっていくのではないかとと思う。

[事務局]

40

ニーズの摘み出しやデータの蓄積をできるような仕組みをつくっていき、今後の展開を考えていきたい。

[委員]

大人の非常食ではなく子どもの非常食について、保護者は関心を持っている。そういった

内容の講話についても工夫し発展させていく必要があると思う。

[委員]

10 実地検証は、訓練参加者を増やすため、都民それぞれのライフステージによって求めているものが違うという問題意識で行われている。王子消防署及び池袋消防署での実地検証は、幼稚園児、保育園児を持つ家庭を対象としているが、このような家庭の切実なニーズというのは、子どもは自宅近くの幼稚園や保育園に預け大人は会社に行ってしまう中で首都直下地震が起きた際に、実際に引き取りができるのかという点ではないか。幼稚園及び保育園では引き取り訓練を行っておりそれに合わせて防災訓練を行うと有効であるとあったが、一番のニーズがあるのは、引き取りに行けるのか、安否確認できるのか等の訓練と思われる。消防機関がバックアップすることで引き取り訓練自体の具体化や身に迫った訓練ができないか。実際の地震時に動かなくていい人が動いてしまうと消防活動の妨げにもなりかねない。講習、体験型など一定の形式のもののみを訓練と捉える必要はなく、引き取り訓練をいかに効果的に行うかということところにも着目して、引き取り訓練そのものもカウントの対象にすれば、自ずと参加者は増えるはず。大がかりな訓練だけでなく細かな訓練についても消防機関が支援するとよいのではないか。

[委員]

20 今後、そういった工夫や試みを東京消防庁としてやっていけるような仕組みをつくっていく必要があり訓練を通し PDCA を繰り返すことでやれることを増やしていく方向性を打ち出していければいいと思う。

[議長]

引き取り訓練はニーズのある訓練だが、引き取り訓練に結びつくようなノウハウを引っ掛けて伝えていくことが重要である。

[事務局]

保護者にどうなって欲しいのか、幼稚園及び保育園側は引取りに来てほしいという話もあるので、話し合いを行いマッチングした訓練を構築できる仕組みをつくる必要がある。

エ PDCA 型防火防災訓練実施手引きについて

事務局より地部資料 5 - 4 について説明した。

[議長]

30 この手引きは、消防職員向けと考えてよろしいか。

[事務局]

お見込みのとおり。

[議長]

例えば、自治会の防災担当者に配布してもよいのではないか。

[事務局]

PDCA 自体はブラッシュアップしていく上では重要であると考えているのでやり方が形になれば町会向け等の様々な PDCA のシートもよいのではないかと考えている。

[議長]

消防署と協議するような逆のベクトルの打合せが入ってくると思う。

40

[委員]

消防職員だけが作るのではなく訓練をした側も同じように作るべきである。訓練を受けた人の感じ方であったり要望であったりを明確に出してもらった方がよい気がする。

[事務局]

訓練を推進する側の町会の防災担当者等に向けた支援制度も必要ではないかといった提言を考えている。その中で PDCA のシート等のマニュアルを将来的に考える必要があると思う。

[委員]

もう少し簡単なものでいいと思うが、打合せや振り返りは必ず一緒にやらないといけない。手引きの説明については、消防職員ができるようになり住民側は欄に書き込むだけの形がよいのではないか。

[議長]

10 少し面倒なイメージがあるのでもう少しシンプルにした方がよい。また、参考資料2の15ページの工夫に対する評価が肝であるが、実際に参加者が増えた場合に、どの工夫が効果的だったのか自己評価する際に主観が入ることになるので、手挙げ等で確認することで客観的に評価できると思う。

[事務局]

今まで、そのようなデータの取り込みは行われてこなかった。今後、データの取り方、評価の方法等検討していく。

[委員]

参考資料2の12ページのマトリクスは何を意味しているのか。

[事務局]

20 訓練の評価部分に繋がるもので、このままやっていけばよい訓練なのか将来的に発展性があるような訓練を継続性の有無と成功失敗で表現したものである。

[議長]

「修正」と「カイゼン」の違いは何か。

[事務局]

「修正」は、成功が前提でコスト等の問題で継続して行うことが難しいものでありどうコストをかけないかといったような修繕の意味を持つ。

[委員]

30 成功（○）失敗（×）で分類するなら訓練できたこと自体が成功（○）ではないか。失敗（×）という評価を与えてしまうともうやらないということになりかねない。内容によって、発展や修正は部分的にあり訓練を一括して評価するのは難しいので振り返りの中で行えばよいのではないか。

[委員]

「失敗」という言葉は、市民向けに使うべきではないので「修正」や「見直し」にした方がよい。また、失敗に気づくことは、次の訓練に発展できるとてもよいことである。

[事務局]

用語等については、見直しを行いたいと思う。

[委員]

40 現在、東京都ではモデル的に訓練アドバイザーを地域に派遣している。訓練対象のニーズを汲み取りそれに合わせた訓練提供を行っている。ニーズを汲み取った準備をどれだけやったかが訓練の結果を左右する。手引きの中で訓練対象者とどういった打合せをしたか等の準備段階の評価もいれるとよい。

[委員]

そういったシステムを展開するのであれば、ここでの検討と合わせて各署とも連携していく方向にもっていかなければならない。

[議長]

東京都の訓練アドバイザーの派遣が決定した際、東京消防庁に情報提供して一緒に訓練を行った方がよいと思う。

[委員]

東京消防庁と検討し進めていきたいと思う。

[委員]

参考資料2の4ページの「改善(D)」は(A)ではないか。また、(P)の前段階も入れておくとうい。 (C)の後半部分は、(A)に入れてもよいのではないか。

[議長]

10 (C)の④、⑤から(A)に入れてもよい。

オ 第22期火災予防審議会における提言案について

事務局より地部資料5-5について説明した。

[委員]

地部資料5-5の8ページでは幼稚園と保育園だけしか取り上げていないが、実地検証では色々な対象に対して訓練を行っており、特に外国人居住者は大切だと思う。どの国の外国人に対して防火防災訓練を行うかは重要である。災害時は、外国人の対応が問題になってくる。セグメントごとにこういったものを作れるとうい。

[事務局]

20 外国人居住者については、整理し答申書として出したいと思う。

[議長]

例えば幼稚園や保育園だけでなく、小学校では保護者に対するメール配信システムが確立されている。授業参観の時間の一部を使って訓練をすることもできる。各対象となる施設が持っている情報伝達ツールを上手く利用する形でまとめていってもよいのではないか。また、タイトルはもう少し抽象化し、タイトルではなく文章の中に保育園や幼稚園、小学校などを書いていく方がよい。

また、地部資料5-5の6ページのPDCAサイクルの中に図を入れられないか。どういったことをPDCAサイクルとしているのか、文章を読めば分かるが、入れた方が分かりやすいと思う。

30

[委員]

地部資料5-5の6ページのデータの蓄積と共有体制の構築とは、各消防署が訓練を行いPDCAを回すと、それが蓄積されていき、それを本庁に集約し本庁で誰でも見られるような形で整備を行っていくということがあっての共有なのか。どのように共有させようとしているのかが分からない。東京消防庁の署だけで見られるWeb上のデータとして公開して蓄積されていけば、各消防署で見られるようになる。件数が増えてくると、検索ができるような工夫が必要となる。そのあたりが具体的に誰がどのように準備をして共有するのが少し分かりづらい。

また、共有する内容として、例えば家具固定のDVDや池上先生が示した子供を守るための映像や写真等の訓練の小道具を各消防署が工夫して作られていると思うが、それを他に提供

40

地部資料5-5の7ページの研修についても、これはどのように研修するのか。PDCAサイクルの使い方を研修するのか。毎年報告会がある中で、関心が高い訓練をピックアップして、研修者に対して実際にどのように行ったかを発表してもらうような場を作り、各署から1人

か2人集めて苦労話を含めて報告するというやり方をする方が、臨場感もあり質問もできていいと思う。

[事務局]

検討し具体的に整理していきたいと思う。

[委員]

資料では、教官が講義するイメージだが、お互いに教え合い学び合うという研修の仕組みを作っていく方がよい。

[事務局]

東京消防庁としても担当者が集まって話し合いをする場が少ないと感じるので、取り入れていきたいと思う。

10

[議長]

地部資料5-5の6ページ、7ページの(2)について、先程の抽象化の話だが、消防署員のスキル向上への環境整備となっているところを防火防災訓練指導者と置き換えると、地域住民のことについても触れられるのではないか。

要するに、地域の住民にとっても単純に人材育成ということだけではなく、スキル向上に関しても環境を提供することができればよいと思う。

今回実地検証を行った分について、PDCA手引きに従って入力してみるとよい。こんなこと書けない、こんなことできないということが出てくると思う。PDCA手引きのPDCAをやっていくということも必要なのかなと思う。

20

(3) その他

事務局より、第6回部会、総会の開催時期について連絡した。

(4) 閉会